



今できることをしっかりと

教育長 渡邊 尚人

新型コロナウイルスの感染拡大により、東京オリンピックの延期、学校の休業、イベントの中止、プロスポーツの開幕延期、「緊急事態宣言」の全国への拡大、高校総体や全中大会の中止などが続きましたが、このところ（5/7現在）感染者が全国的に減少し、社会全体が再開に向け動き出そうとしているように感じています。

さて、4月に学校が一時再開され、始業式を無事終えた小中学校の数校に元気な子供たちの様子をこの目で見たいという気持ちから、急遽、学校訪問をさせていただきました。そこで気付いたことは、子どもたちのマスクの着用にかかなりの差があるということです。ある学校では1クラスで2～3人程度、ある学校では7割程度、同じ学校でも学年により着用率に差がありました。着用率の良い学校では授業をする先生もマスクをしていないことが多く見受けられました。県内N市の学校では「校内でのマスク着用は徹底している。

ただ、校門を出るとマスクを外しているようですが・・・」と話していました。



様々な理由はあるでしょうが、学校としては、国の専門家会議が提唱する「新しい生活様式」に則った「マスクの着用」「人と人との間隔の確保」「3密を徹底的に避ける」などの配慮や工夫を行うとともに子供たちや保護者への呼びかけを徹底することが必要ではないかと思えます。

教師一人一人の姿勢や発言が子どもたちに大きな影響を与えます。このことはマスクに限らず、学校における学習活動や生活指導など全般に渡って言えることです。今、学校や教師の姿勢が問われているように思えてなりません。

危機に強い学校に

管理主事 森 和人

令和2年度のスタートは、新型コロナウイルス感染拡大という危機に立ち向かう形で始まりました。昨年までは、世界中の人がまさかこのような危機に見舞われるとは思っていなかったことでしょう。

危機は不意に襲いかかってきます。子どもの命を預かる私たちは、常に最悪の危機状態を想定し、以下のように適切に対応ができる準備をしておくことが重要です。

○危機管理マニュアルの共通理解

突然の危機にパニックにならないように、全職員が行動の見通しをもつことが大切です。もし危機管理マニュアルが、全職員に浸透されていない状態でしたら、共通理解を図る場を設定してください。また、教職員で研修を行い、危機管理能力の育成に努めましょう。

○慎重かつ素早い初期対応

問題が起きた場合、適切な初期対応により、二次的問題の発生を阻止し、被害の拡大を防ぐことができます。まずは、子どもの安全を最優先に、素早く対応できるように心掛けておきましょう。

○役割を明確にした組織的対応

校長を頂点とした指示系統をはっきりさせ、全職員が一体となって取り組みます。そのために、組織の中での対応がシステム化され、一人一人が役割を意識して動けることが大切です。特に、情報収集体制、情報共有体制、保護者や関係機関への連絡連携体制を整えておきましょう。



「学力向上」 今、先生が大切にしたい3つのこと

指導主事 小田俊裕

各校では新入生や新任職員を迎え、新年度の教育活動を始めた矢先、佐渡市の小中学校は昨年度末に続き臨時休業となりました。多くの先生方がこれからの教育活動に不安を感じたのではないかと思います。子どもたちはどうでしょう。学校が休校になり、勉強ができない、部活動ができないに加え、家にいても外出は制限され、普段のように友達と遊んだりすることもできない等々、多くの制限を受け、子どもたちは大人が想像できないほどの不安を抱いていると思われます。

学校が再開した今、学力向上のために先生は何を大切にしていかなければならないのでしょうか。それは子どもたちが安心して学べる居場所づくりです。そのために先生が大切にしてほしい3つのことをお願いします。

- ① 「学校では笑顔でいる」
- ② 「子どもに好意を伝える」
- ③ 「よいところを認め、ほめる」

先生が笑顔でいるだけで子どもたちは安心します。先生が「みんなといられてうれしい」気持ちを伝えると子どもたちも先生に好意をもちます。そして自分を認めてくれる（わかってくれる）先生を子どもたちは信頼します。

学力向上の基盤は安心して学べる環境（先生との人間関係）とも言われます。子どもたちの安全基地として子どもたちを見守り、安全・安心な居場所をつくっていただきたいと思います。

絶対に、悪者にはさせない

教育指導主事 大谷 直治

昨年度の事故報告で、非行、いじめ、虐待がほぼ倍増しています。いじめの認知率は、平成30年度1,000人当たり全国40.9、新潟県79.3、佐渡市19.1。令和元年度は、全国並みになったといえます。私は、児童虐待とともに佐渡市全体の認知力の向上と考えます。

年度	30	元
交通事故	9	2
傷害	44	54
非行	16	30
いじめ	44	97
疾病	16	5
不審者	28	23
虐待	8	16
家出	1	2
その他	3	7
合計	169	236

他方、対応後に「児童生徒・保護者が学校の示す方向を理解してくれない」場合があります。「納得解」を提示できなくて、解決が長引くこともあります。

納得しない理由は、様々です。その中に、行為の背景にあるその子なりの言い分をじっくり聴いてくれなかったというものがあります。

十分な聴き取りなしに判断された瞬間、心のシャッターを下ろす児童生徒がいます。他の児童生徒へ悪い連鎖をする場合もあります。落ち着いた学校というのも、元をたどれば事態が深刻になってからのたった一人の不用意な、たった一言から始まったのかもしれない。

そんな時、ある校長が児童に熱く語りかけた見出しの言葉を思い出します。その校長は一般論として、問題行動を繰り返す環境に「信頼できる大人が少ない」と言います。もしそうなら、我々教職員はどんな状況であっても、目の前の子どもを見捨てない信頼できる大人でありたいと思います。

職員の異動のお知らせ

学校教育課「管理・指導部門」では、今年度次のとおり職員の異動がありました。

<退職> 指導主事 後藤 修治 (両津吉井小学校長)
 教育指導主事 本間 健人 教育指導主事 山本 博明

<新任> 管理主事 森 和人 指導主事 小田 俊裕
 教育指導主事 名古屋 瑞穂 教育指導主事 庄山 佳代子

